

今月号の特集は、第15回CSJ化学フェスタでした。私はCSJ化学フェスタの実行委員を仰せつかっており、ぜひ皆様にご参加いただきたいと思います。すでに参加を予定されている皆様は、ぜひ近くの方をお誘いあわせの上お越し下さい。まだ参加を決めてない方も、面白い化学と新しい視点がつまった企画がたくさんありますので、特集記事をご覧ください、ぜひご来場下さい。CSJ化学フェスタでは、基礎から先端にわたる講演、学生ポスターの発表、産学官R&D展示ブース、学生さんも多数参加する交流会など、ご参加の皆様の今後に役立つ情報が得られるだけでなく、いろいろな場面で交流のチャンスがたくさんあります。特に、より多くの学生さんに、より多くの魅力的な企業の研究開発を知ってほしいと思います。社名は知っていても、案外、どんな製品を作って、どんな研究開発を行っているかを十分に知らないこともあると思います。ぜひ、これを機会に、専攻している化学の知識を活かした仕事の魅力を感じてもらい、興味をもってもらいたいと思います。

テレビ、新幹線の車内電光掲示などに、化学系企業のコマーシャルは多いように思います。このような広

告は、化学を専攻していない方にも、高い研究力と技術力で市民生活や社会基盤を支える化学系企業の名前を知ってもらうにも素晴らしい機会だと思っています。しかし、化学系（広くは理系）の研究開発の将来を担う人材確保は安泰ではなさそうです。大学で研究/教育に携わる者としては、化学を専攻した後、一見すると修めた学問と異なる進路を選択する学生が増えつつあるように感じられます。ほかの大学の先生とお話しする機会にも、同様の話題があがることは少なくありません。当然、学生さんがどのような職に就くことも自由ですが、せっかく学んだ化学の知識を活かして活躍してほしいと思っています。また、ともに研究した（指導した）学生であれば、なおさらその研究力なども活かしてほしいと思っています。学生に、恐る恐る聞いてみると、「勤務地」「初任給」といった要素で、別な職種・業界に魅力があるという意見がありました。いろいろな要因はあれども、化学や研究に対するあこがれや魅力が、ほかの何かに比べ、相対的に少し低下しているように思いました。次世代の化学人材育成に向けても、産学連携は重要ではないかと感じています。（緒明佑哉）

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



赤いダリヤの花 那須植物ワールドにて
畠山史郎